

26

1 イエスはこれらの言葉をすべて語り終えてから、弟子たち
 2 「あなたがたが知っているとおり、ふつかの後には過越
 の祭になるが、人の子は十字架につけられるために引
 き渡される」。
 3 そのとき、祭司長たちや民の長老たちが、カヤパという
 大祭司の中庭に集まり、
 4 策略をもってイエスを捕えて殺そうと相談した。
 5 しかし彼らは言った、「祭の間はいけない。民衆の中に
 騒ぎが起るかも知れない」。

6 さて、イエスがベタニヤで、らい病人シモンの家におら
 れたとき、
 7 ひとりの女が、高価な香油が入れてある石膏のつぼを持
 ってきて、イエスに近寄り、食事の席についておられ
 たイエスの頭に香油を注ぎかけた。
 8 すると、弟子たちはこれを見て憤って言った、「なんの
 ためにこんなむだ使をするのか」。
 9 それを高く売って、貧しい人たちに施すことができたの
 に」。
 10 イエスはそれを聞いて彼らに言われた、「なぜ、女を困
 らせるのか。わたしによい事をしてくれたのだ。
 11 貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいるが、わた
 しはいつも一緒にいるわけではない」。
 12 この女がわたしのからだにこの香油を注いだのは、わた
 しの葬りの用意をするためである。
 13 よく聞きなさい。全世界のどこでも、この福音が宣べ
 伝えられる所では、この女のした事も記念として語ら
 れるであろう」。

14 時に、十二弟子のひとりイスカリオテのユダという者
 が、祭司長たちのところに行って
 15 言った、「彼をあなたがたに引き渡せば、いくらくださ
 いますか」。すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払っ
 た。
 16 その時から、ユダはイエスを引きわたそうと、機会をね
 らっていた。

26

17 さて、除酵祭の第一日に、弟子たちはイエスのもとにき
 て言った、「過越の食事をなさるために、わたしたちは
 どこに用意をしたらよいでしょうか」。
 18 イエスは言われた、「市内にはいり、かねて話してある
 人の所に行つて言いなさい、『先生が、わたしの時が近
 づいた、あなたの家で弟子たちと一緒に過越を守ろう
 と、言っておられます』」。
 19 弟子たちはイエスが命じられたとおりにして、過越の
 用意をした。
 20 夕方になって、イエスは十二弟子と一緒に食事の席につ
 かれた。
 21 そして、一同が食事をしているとき言われた、「特にあ
 なたがたに言っておくが、あなたがたのうちの一
 人が、わたしを裏切るうとしてい

22 弟子たちは非常に心配して、つきつぎに「主よ、まさ
 か、わたしではないでしょうか」と言い出した。
 23 イエスは答えて言われた、「わたしと一緒に同じ鉢に手
 を入れている者が、わたしを裏切るうとしている」。
 24 たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去
 っていく。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわ
 いである。その人は生れなかつた方が、彼のためによ
 かつたであろう」。
 25 イエスを裏切つたユダが答えて言った、「先生、まさか、
 わたしではないでしょうか」。イエスは言われた、「いや、
 あなただ」。
 26 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福
 してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取って
 食べよ、これはわたしのからだである」。
 27 また杯を取り、感謝して彼らに与えて言われた、「みな、
 この杯から飲め」。
 28 これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のた
 めに流すわたしの契約の血である。
 29 あなたがたに言っておく。わたしの父の国であなたがた
 と共に、新しく飲むその日まで、わたしは今後決し
 て、ぶどうの実から造つたものを飲むことをしない」。

30 彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行つ
 た。
 31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「今夜、あな
 たがたは皆わたしにまつまうであろう。『わたしは羊飼
 を打つ。そして、羊の群れは散らされるであろう』と、
 書いてあるからである」。
 32 しかしわたしは、よみがえつてから、あなたがたより先
 にガリラヤへ行くであろう」。
 33 するとペテロはイエスに答えて言った、「たとい、みん
 なの者があなたにまつまうても、わたしは決してつま
 ずきません」。
 34 イエスは言われた、「よくあなたに言っておく。今夜、
 鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言
 だらう」。
 35 ペテロは言った、「たといあなたと一緒に死なねばなら
 なくなつても、あなたを知らないなどとは、決して申
 しません」。弟子たちもみな同じように言った。

36それから、イエスは彼らと一緒に、ゲツセマネという所へ行かれた。そして弟子たちに言われた、「わたしが向こうへ行つて祈っている間、ここにすわっていないなさい」。

37そしてペテロとゼベダイの子ふたりとを連れて行かれたが、悲しみを催した悩みはじめられた。

38そのとき、彼らに言われた、「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、わたしと一緒に目をさましていないさい」。

39そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈つて言われた、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにはなく、みこころのままになさつて下さい」。

40それから、弟子たちの所にきてごらんになると、彼らが眠っていたので、ペテロに言われた、「あなたがたはそんなに、ひと時もわたしと一緒に目をさましていることが、できなかつたのか。

41誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていないなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。

42また二度目に行つて、祈つて言われた、「わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように」。

43またきてごらんになると、彼らはまた眠っていた。その目が重くなつていたのである。

44それで彼らをそのままにして、また行つて、三度目に同じ言葉で祈られた。

45それから弟子たちの所に帰つてきて、言われた、「まだ眠っているのか、休んでいるのか。見よ、時が迫つた。人の子は罪人らの手に渡されるのだ。

46立て、さあ行こう。見よ、わたしを裏切る者が近づいてきた」。

47そして、イエスがまだ話しておられるうちに、そこに、十二弟子のひとりのユダがきた。また祭司長、民の長老たちから送られた大ぜいの群衆も、剣と棒を持って彼についできた。

48イエスを裏切つた者が、あらかじめ彼らに、「わたしの接吻する者が、その人だ。その人をつかまえろ」と合図をしておいた。

49彼はすぐイエスに近寄り、「先生、いかがですか」と言つて、イエスに接吻した。

50しかし、イエスは彼に言われた、「友よ、なんのためにきたのか」。このとき、人々が進み寄つて、イエスに手をかけてつかまえた。

51すると、イエスと一緒にいた者のひとりが、手を伸ばして剣を抜き、そして大祭司の僕に切りかかつて、その片耳を切り落した。

52そこで、イエスは彼に言われた、「あなたの剣をもとの所におさめなさい。剣をとる者はみな、剣で滅びる」。

53それとも、わたしが父に願つて、天の使たちを十二軍団以上も、今つかわしていただくことができないと、あなたはどう思うのか。

54しかし、それでは、こうならねばならないと書いてある聖書の言葉は、どうして成就されようか」。

55そのとき、イエスは群衆に言われた、「あなたがたは強盗にむかうように、剣や棒を持ってわたしを捕えにきたのか。わたしは毎日、宮ですわつて教えていたのに、わたしをつかまえはしなかつた」。

56しかし、すべてこうなつたのは、預言者たちの書いたことが、成就するためである」。そのとき、弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去つた。

57さて、イエスをつかまえた人たちは、大祭司カヤバのところにイエスを連れて行った。そこには律法学者、長老たちが集まっていた。

58ペテロは遠くからイエスについて、大祭司の中庭まで行き、そのなりゆきを見とどけるために、中にはいって下役どもと一緒にすわっていた。

59さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするため、イエスに不利な偽証を求めようとしていた。

60そこで多くの偽証者が出てきたが、証拠があらなかった。しかし、最後にふたりの者が出てきて

61言った、「この人は、わたしは神の宮を打ちこわし、三日の後に建てることができる、と言いました」。

62すると、大祭司が立ち上がってイエスに言った、「何も答えないのか。これらの人々があなたに対して不利な証言を申し立てているが、どうなのか」。

63しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司は言った、「あなたは神の子キリストなのかどうか、生ける神に誓ってわれわれに答えよ」。

64イエスは彼に言われた、「あなたの言うとおりであります。しかし、わたしは言っておく。あなたがたは、間もなく、人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。

65すると、大祭司はその衣を引き裂いて言った、「彼は神を汚した。どうしてこれ以上、証人の必要があるう

66あなたがたの意見はどうか」。すると、彼らは答えて言った、「彼は死に当るものだ」。

67それから、彼らはイエスの顔につばきをかけて、こぶしで打ち、またある人は手のひらでたたいて言った、

68「キリストよ、言いあててみよ、打ったのはだれか」。

69ペテロは外で中庭にすわっていた。するとひとりの女中が彼のところに来て、「あなたもあのガリラヤ人イエスと一緒に言った」と言った。

70するとペテロは、みんなの前でそれを打ち消して言った、「あなたが何を言っているのか、わからない」。

71そう言って入口の方に出て行くと、ほかの女中が彼を見て、そこにいる人々にむかって、「この人はナザレ人イエスと一緒に言った」と言った。

72そこで彼は再びそれを打ち消して、「そんな人は知らない」と誓って言った。

73しばらくして、そこに立っていた人々が近寄ってきて、ペテロに言った、「確かにあなたも彼らの仲間だ。言葉づかいであなたのことがわかる」。

74彼は「その人のことは何も知らない」と言って、激しく誓いはじめた。するとすぐ鶏が鳴いた。

75ペテロは「鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われたイエスの言葉を思い出し、外に出て激しく泣いた。

1夜が明けると、祭司長たち、民の長老たち一同は、イエスを殺そうとして協議をこらした上、

2イエスを縛って引き出し、総督ピラトに渡した。

3そのとき、イエスを裏切ったユダは、イエスが罪に定められたのを見て後悔し、銀貨三十枚を祭司長、長老たちに戻して

4言った、「わたしは罪のない人の血を売るようなことをして、罪を犯しました。しかし彼らは言った、「それは、われわれの知ったことか。自分で始末するがよい」。

5そこで、彼は銀貨を聖所に投げ込んで出て行き、首を切って死んだ。

6祭司長たちは、その銀貨を拾いあげて言った、「これは血の代価だから、宮の金庫に入れるのはよくない」。

7そこで彼らは協議の上、外国人の墓地にするために、その金で陶器師の畑を買った。

8そのために、この畑は今日まで血の畑と呼ばれている。こうして預言者エレミヤによって言われた言葉が、成就したのである。すなわち、「彼らは、値をつけられたもの、すなわち、イスラエルの子らが値をつけたものの代価、銀貨三十を取って、

10主がお命じになったように、陶器師の畑の代価として、その金を与えた」。

11さて、イエスは総督の前に立たれた。すると総督はイエスに尋ねて言った、「あなたがユダヤ人の王であるか」。

イエスは「そのとおりであります」と言われた。

12しかし、祭司長、長老たちが訴えている間、イエスはひと言もお答えにならなかった。

13するとピラトは言った、「あんなにまで次々に、あなたに不利な証言を立てているのが、あなたには聞えないのか」。

14しかし、総督が非常に不思議に思ったほどに、イエスは何を言われても、ひと言もお答えにならなかった。

15 さて、祭のたびごとに、総督は群衆が願ひ出る囚人ひとり
 を、ゆるしてやる慣例になっていた。
 16 ときに、バラバという評判の囚人がいた。
 17 それで、彼らが集まったとき、ピラトは言った、「おまえ
 たちは、だれをゆるしてほしいのか。バラバか、そ
 れとも、キリストといわれるイエスか」。
 18 彼らがイエスを引きわたしたのは、ねたみのためである
 ことが、ピラトにはよくわかっていたからである。
 19 また、ピラトが裁判の席についていたとき、その妻が人
 を彼のもとにつかわして、「あの義人には関係しないで
 ください。わたしはききよう夢で、あの人のためにさん
 さん苦しみましたから」と言させた。
 20 しかし、祭司長、長老たちは、バラバをゆるして、イエ
 スを殺してもらうようにと、群衆を説き伏せた。
 21 総督は彼らにむかって言った、「ふたりのうち、どちら
 をゆるしてほしいのか」。彼らは「バラバの方を」と言
 った。
 22 ピラトは言った、「それではキリストといわれるイエス
 は、どうしたらよいか」。彼らはいっせいに「十字架に
 つけよ」と言った。
 23 しかし、ピラトは言った、「あの人は、いったい、どん
 な悪事をしたのか」。すると彼らはいっそう激しく叫ん
 で、「十字架につけよ」と言った。
 24 ピラトは手のつけようがなく、かえって暴動になりそう
 なのを見て、水を取り、群衆の前で手を洗って言った、
 「この人の血について、わたしには責任がない。おまえ
 たちが自分で始末をするがよい」。
 25 すると、民衆全体が答えて言った、「その血の責任は、
 われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい」。
 26 そこで、ピラトはバラバをゆるしてやり、イエスをむち
 打ったのち、十字架につけるために引きわたした。

27 それから総督の兵士たちは、イエスを官邸に連れて行っ
 て、全部隊をイエスのまわりに集めた。
 28 そしてその上着をぬがせて、赤い外套を着せ、
 29 また、いばらで冠を編んでその頭にかぶらせ、右の手に
 は葦の棒を持たせ、それからその前にひざまずき、
 嘲弄して、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。
 30 また、イエスにつばきをかけ、葦の棒を取りあげてその
 頭をたたいた。
 31 こうしてイエスを嘲弄したあげく、外套をはぎ取って元
 の上着を着せ、それから十字架につけるために引き出
 した。
 32 彼らが出て行くと、シモンという名のクレネ人に出会っ
 たので、イエスの十字架を無理に負わせた。
 33 そして、ゴルゴタ、すなわち、されこうべの場、という
 所にきたとき、
 34 彼らにはがみをませたぶどう酒を飲ませようとしたが、
 イエスはそれをなめただけで、飲もうとされなかった。
 35 彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いて、そ
 の着物を分け、
 36 そこにすわってイエスの番をしていた。
 37 そしてその頭の上の方に、「これはユダヤ人の王イエス」
 と書いた罪状書きをかけた。
 38 同時に、ふたりの強盗がイエスと一緒に、ひとり右
 に、ひとり左に、十字架につけられた。
 39 そこを通りかかった者たちは、頭を振りながら、イエス
 をののしって
 40 言った、「神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ。
 もし神の子なら、自分を救え。そして十字架からおり
 てこい」。
 41 祭司長たちも同じように、律法学者、長老たちと一緒に
 なって、嘲弄して言った、
 42 「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。あ
 れがイスラエルの王なのだ。いま十字架からおりてみ
 よ。そうしたら信じよう」。
 43 彼は神にたよっているが、神のおぼしめしがあれば、
 今、救ってもらうがよい。自分は神の子だと言ってい
 たのだから」。
 44 一緒に十字架につけられた強盗どもまでも、同じように
 イエスをののしった。